



おすすめごはんがやってきた！ from 豊山小学校

七月三日、豊山小学校に大相撲時津風部屋より豊山（ゆたかやま）関が来校し、豊山健児とふれあいました。

今回の豊山関の本校訪問は、「ゆたかやま」と「とよやま」で読み方こそ違いますが、漢字が同じということで、「ぜひ豊山小学校に来ていただいて、相撲の魅力子どもたちに伝えていただけませんか」と豊山関にメールを送ったことがきっかけで実現しました。

豊山関は、「宿舍が犬山成田山にあるので名古屋場所に行くときには必ず豊山町を通ります。豊山町を通る度に、いつか自分も相撲取りとして有名になったら、豊山町の小学校や保育園などから声がかからないかなと思っていました。こんなに早く実現するなんてとてもうれいのです」と言われました。



食を、各学年代表の子どもたちと一緒に召し上がりました。子どもたちは、お相撲さんが食べる量の多さに驚いていました。

五時間目はいよいよ豊山関とのふれあい会です。ほとんどの子どもたちが初めて見るお相撲さんに興奮も最高潮。盛大な拍手で豊山関をお迎えしたあとの質問タイムでは、「体重は何kgですか」とか「お相撲さんになろうと思っただけは何ですか」など、様々な質問が飛び出しました。

また、ふれあいタイムでは、各クラスの代表児童が、豊山関に担いでもらった数人で束になって相撲を挑んだりしました。軽々と子どもたちを持ち上げたり、全力でぶつかってもびくともしなかつたりする豊山関の様子に、子どもたちは感嘆の声を挙げていました。会の最後には、せっかくの記念なので豊山関と子どもたち全員が、ハイタッチをしてお別れをしました。

ホンモノのお相撲さんとふれあうことのできた豊山健児たちにとって、忘れられない一日となりました。名古屋場所前の大変お忙しい中、時間を割いて訪問していただき、本当にありがとうございました。

私の航空史

岡野允俊

飛行機からナベ、カマへ

昭和二十年八月十五日、太平洋戦争は終わり、日本は連合軍に無条件降伏をした。連合軍は日本占領政策として様々な制約を課した。その一つに「航空機の研究、製造の禁止」という条項があり、今の今まで飛行機の開発、増産に全力を注いできた航空機工場は途方にくれた。当座は疎開した機械、設備の引揚げ、工場内の片付けなど後始末的な仕事をして過ごしたが、残った社員で何とか仕事をして食っていかねばならなかった。

そんな中で考え出されたのがとりあえず航空機に使用していた材料、部品の活用であった。一式陸上攻撃機などの大型機の尾輪を使ってリヤカーを作ったり、ジュラルミン材を使ってナベ、カマ、弁当箱などを作った。またアルミパイプで自転車の空気入れを作ったり、自転車その

ものを作ったりした。弁当箱など、この種の民需品の販売については名航の泣きどころでもあり営業部門が無く、全員売り子になり個々で売って歩いた。また、空襲で焼失した名古屋市バスを補うため進駐軍払下げのトラック（ダッジ・五トントラック）のシャーシ百五十台に簡易バスボデーを架装し、ゴツイ市バスを作った。また販売品ではないが飛行機の燃料タンクに張ってあった厚さ一・五センチほどの生ゴムを切って草履を作り、靴も下駄も少なかった時代に重宝がられた。

だがいつまでもこんな場当たり的な仕事では事業にもならず、昭和二十三年頃からも少し生産性の良いものへと発展していった。農機具、口ツカー等を初め戦後復興に役立つものが考えられた。中でもフット・ロツカーは進駐軍向けに大量受注があり、水島、熊本でも生産に寄与した。戦後名航の再起を力づけたものであった。